

NETIS 活用効果調査表 作成手順 マニュアル

令和6年10月

近畿地方整備局 近畿技術事務所

発注者・施工者共通

NETIS 活用効果調査表 作成手順 マニュアル

令和4年4月よりオンラインで作成・提出

- 「新技術活用計画書・実施報告書」および「活用効果調査表」は
令和4年4月よりNETIS（新技術情報提供システム）のHPにて
オンラインで作成・提出となりました。

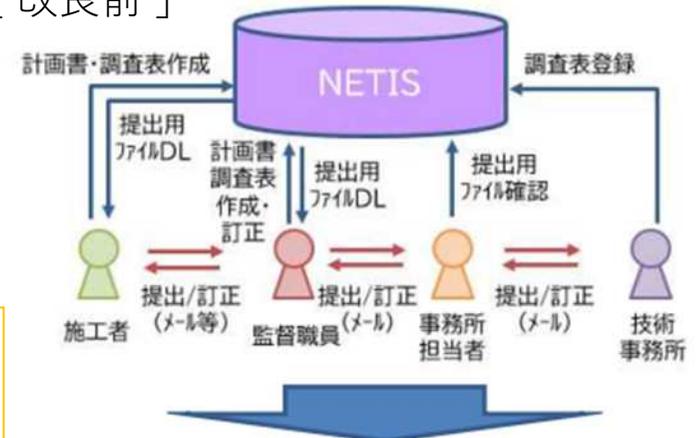
📄 <https://www.netis.mlit.go.jp/NETIS>

※旧システム（R4年3月以前）で作成した活用効果調査表
（zipファイル形式）の内容を確認・修正する場合は、
本マニュアルP10を参照。

初めてNETISにアクセスした場合はアンケート画面になります。
該当する業種を選択し注意事項を確認の上
「OK」ボタンをクリックして内容に同意し、
次に進んでください。

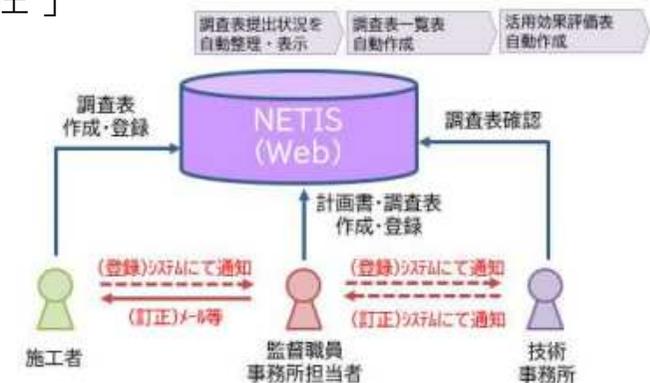


[改良前]



令和4年4月以降のオンライン化のイメージ

[現在]



発注者（監督員）のNETIS操作について

※発注者（監督員）の場合、アクセスするNETISが一般とは異なります。

以下のフロー図を参考に、行政用PCでイントラ版NETISへアクセスしてください。

ブラウザを立ち上げる

内部用ホームページの
「トップページへ」(右上)
ボタン押下

技術管理支援・人材育成
セクションの「技術情報」
プルダウンから
「NETIS(イントラ版)」を
選択

イントラ版NETISへ

ID/PWの発行申請の流れ

- ①施工者がNETISでID/PWを発行する申請を行います。
- ②発注者（監督員）にNETISシステムよりメール通知が届きます。
- ③メール本文に記載のURLをクリックして確認画面へアクセスします。
- ④記載内容が間違っていないかよく確認し、問題なければ「承認」を押します。
記載内容が間違っている場合は、「棄却」ボタンを押し、コメント欄に棄却理由を記載して送信します。
※棄却した場合は、施工者に再度、新規に申請することを指導してください。
- ⑤ID/PWがNETISシステムよりメールにて発注者（監督員）・施工者双方へ通知されます。

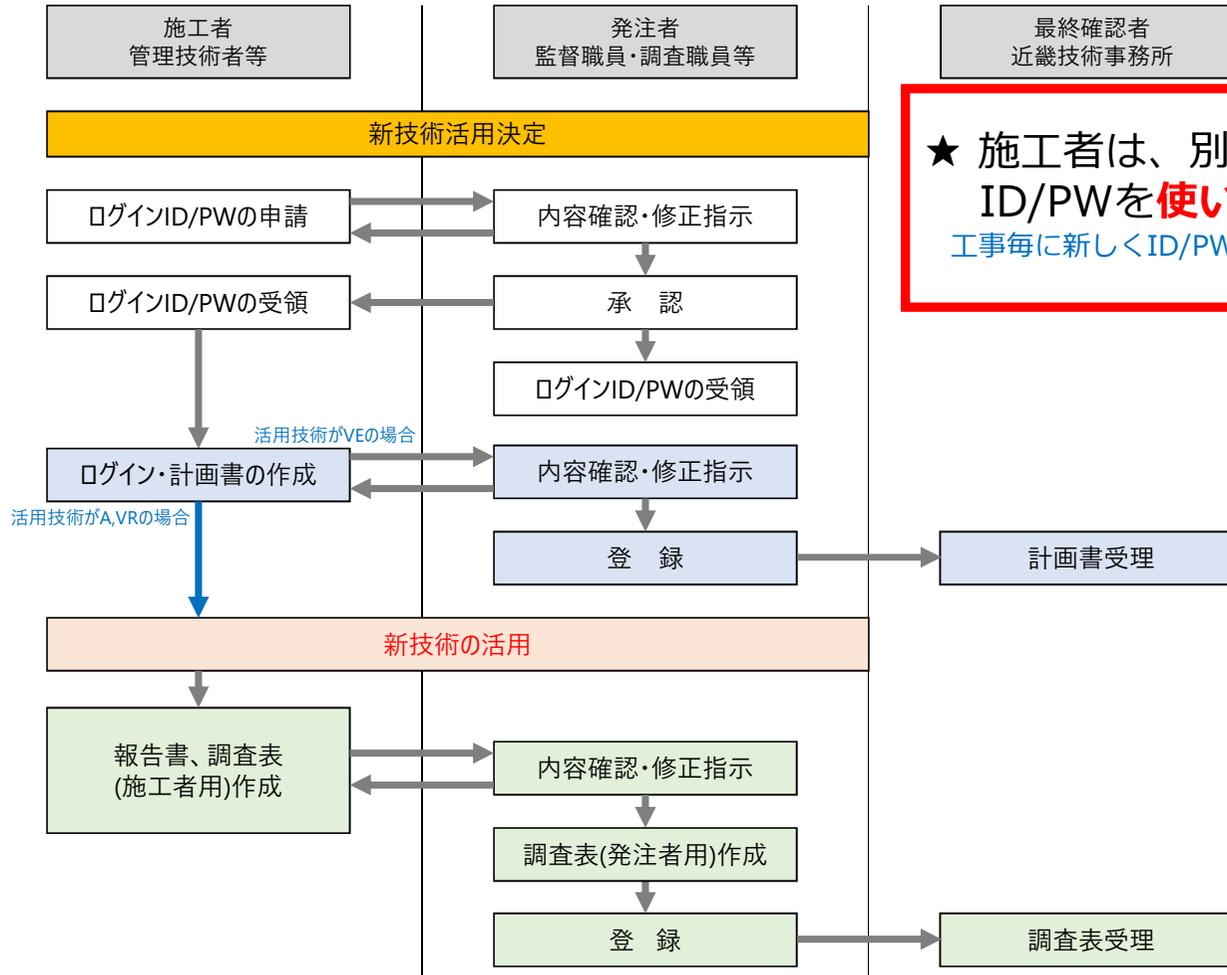
※発注者（監督員）の場合、イントラ版NETISを使用しなければ
取得したID/PWが正しくてもログインエラーになり、ログインできません。

※ イントラ版NETISはヘッダーの色が緑色です。



活用効果調査表の提出フロー

※ 活用効果調査表の構成は次頁を参照。ここでは「新技術活用計画書」を「計画書」、「実施報告書」は「報告書」、「活用効果調査表(発注者用)(施工者用)」は「調査表」と呼びます。



★ 施工者は、別工事のログインID/PWを**使い回し**しない事！
工事毎に新しくID/PWの取得をお願いします。

※ 提出フローの詳細は操作マニュアルを参照してください。

○ 計画書、報告書、調査表は全てオンラインで行います。また、施工者、監督職員、最終確認者への通知は全てシステムより自動応答メールにて行います。

○ ログインID/PWは1工事単位で発行されるため複数の新技術活用が行えます。紛失にご注意ください。

○ 施工者が記入した内容に不備等があった場合はメール/電話及びコメント欄にて対応してください。

○ 令和4年3月以前の調査表 (zip形式ファイル)の修正は現時点で可能となっています。詳細は後述のP10を参照してください。

○ 長期の工事やA,VRの新技術の活用等で、監督職員が変更された場合や、活用を取り止める場合、ID/PWの紛失の場合は下記に電話で問合せください。

近畿地方整備局近畿技術事務所

NETIS受付窓口 072-860-7202

活用効果調査表の構成

A、VR技術の場合は「新技術活用計画書」、「実施報告書」、「活用効果調査表(発注者用)」「活用効果調査表(施工者用)」で構成されます。VE技術の場合は「新技術活用計画書」のみです。

新技術活用前に「新技術活用計画書」を作成。活用後に「実施報告書」、「活用効果調査表」を作成してください。

新技術活用前(VE A VR)

● 計画書

発注者指定型 施工者が作成

施工者選定型 同上

新技術活用後(A VR)

● 実施報告書

施工者が作成

● 活用効果調査表(発注者用) 発注者が作成

● 活用効果調査表(施工者用) 施工者が作成

※システム画面は、一部簡略化しています

NETIS

VEの場合は計画書のタブのみ表示されます

計画書
(活用技術、工事概要等)

計画書
(新技術活用理由)

NETIS

実施報告書
(施工概要等)

NETIS

タブ切替

活用効果調査表(発注者用)
活用効果調査表(施工者用)
(従来技術と比較し、活用の効果を評価)

注意事項

- 活用提案日は、技術毎に必ず記入してください。
- VE技術は計画書のみ作成します。（A、VR技術は計画書、報告書、調査表の作成が必要です。）
- 新技術活用計画書は、活用する新技術が決定したら、新技術を活用する前に、速やかに作成し提出してください。
- 実施報告書並びに活用効果調査表は、新技術活用後（活用後10日程度まで）に作成してください。
- 活用当初“A,VR”だった新技術が、活用が終わるまでに“VE”または“掲載終了”となった技術については、P8以降を参照してください。
- 活用効果調査表に不備があった場合、主任監督員等を通じて修正をお願いする場合があります。予めご了承ください。なお、作成時に不備の無い様、確認をよろしくお願いします。
- 記入欄は原則として全てに記入してください。
- 記入完了後は必ず「記入完了チェックボックス（下図参照）」にチェックを入れ、提出してください。



- 不明な点や判らないことがある場合は下記に電話で問合せください。

近畿地方整備局近畿技術事務所

NETIS受付窓口 072-860-7202
(マイク0755-487)

2. 活用効果調査表について

活用等の型について

発注者指定型

NETISに掲載中の技術を対象に、直轄工事等における工事等の発注に当たって、発注者が新技術を指定することにより活用を行う型（試行申請型、フィールド提供型に該当する場合を除く。）をいう。

発注者指定型（選択肢提示型）

NETISに掲載中の技術を対象に、直轄工事等における工事等の発注に当たって、発注者がテーマ及び当該テーマに対して効果が期待できる複数の新技術（新技術リスト）を提示し、請負契約締結後に施工者が新技術を選択することにより活用を行う型をいう。

施工者選定型（総合評価技術提案）

施工者選定型（総合評価技術提案）は、総合評価落札方式における技術提案に基づき施工者が NETIS掲載中技術の活用を行う型をいう。

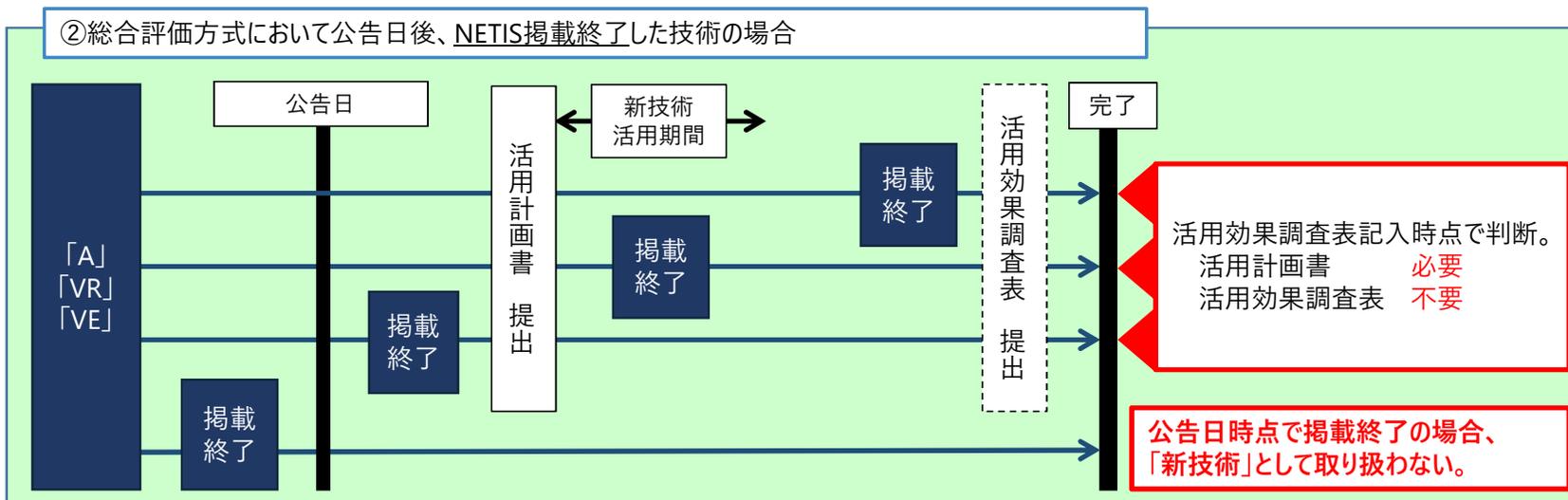
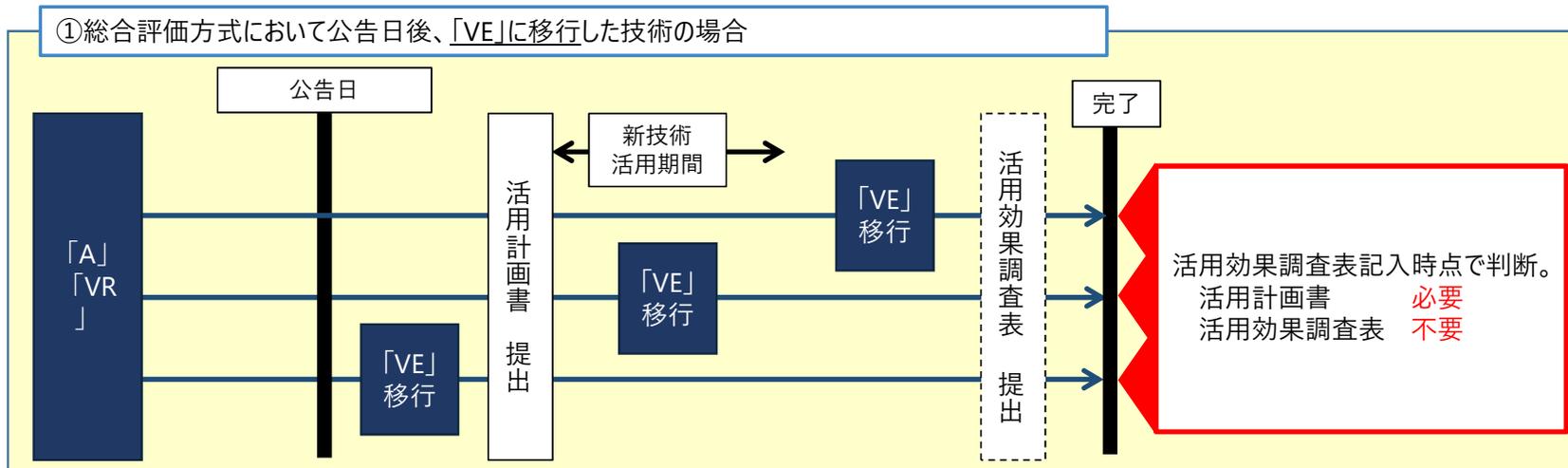
施工者選定型（契約後提案）

施工者選定型（契約後提案）は、一般競争入札方式又は公募型指名競争入札方式の工事等において、請負契約締結後における技術提案申請に基づき施工者が NETIS掲載中技術の活用を行う型をいう。

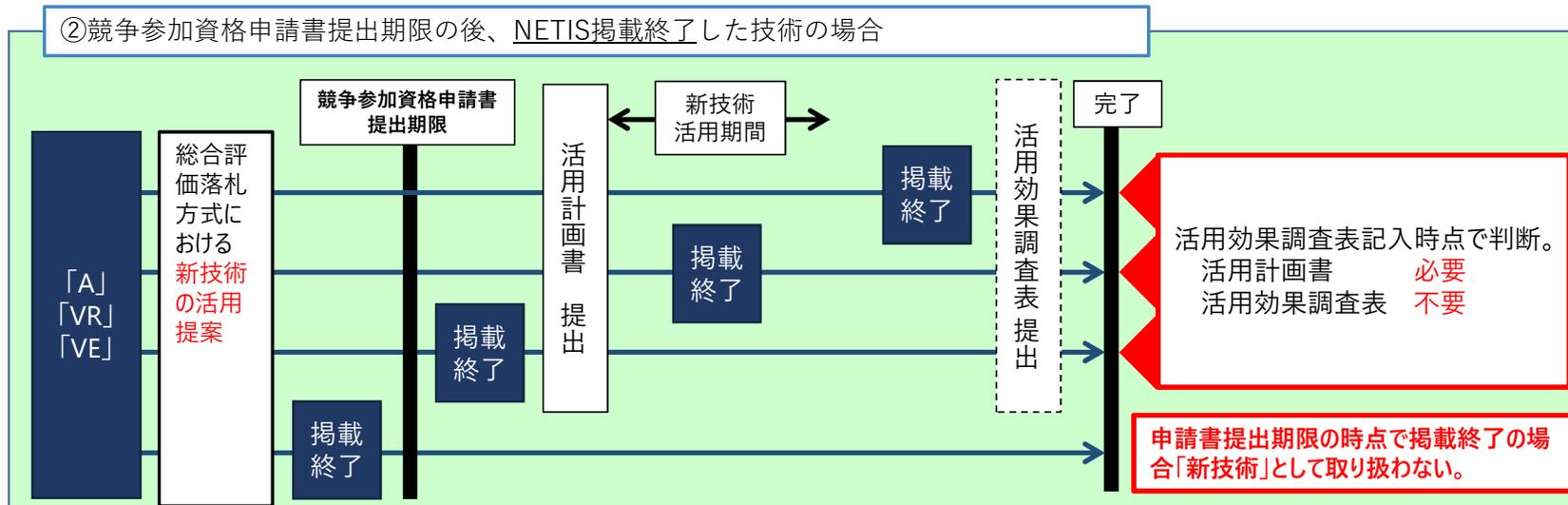
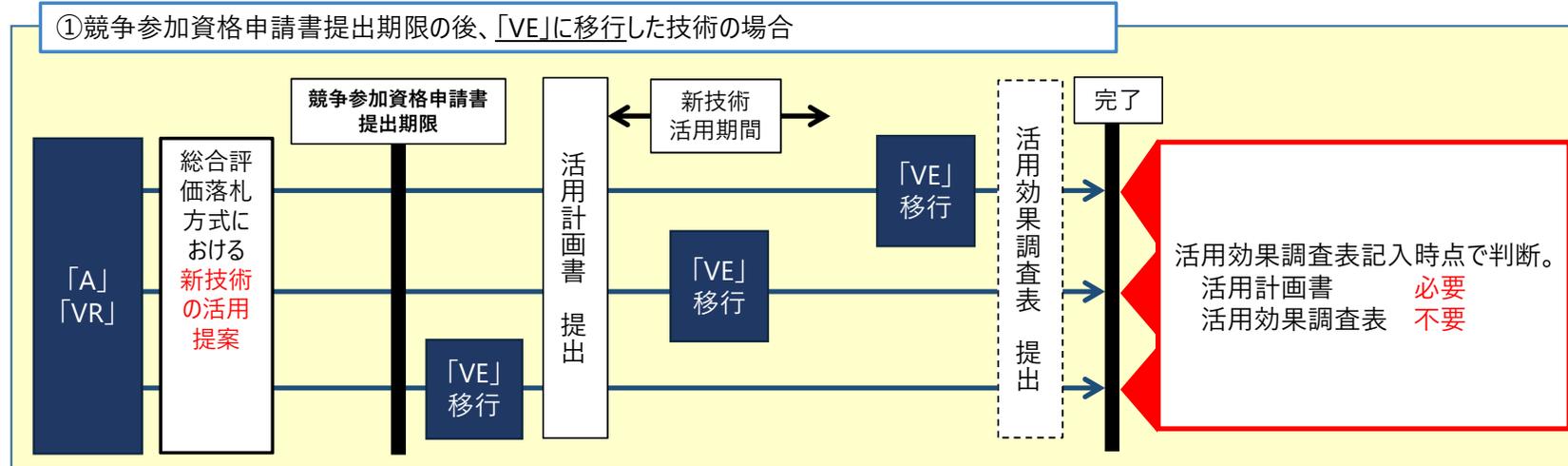


1つの工事で複数の新技術を活用する場合、発注者指定型と発注者指定型（選択肢提示型）は1つの工事で併用できません。

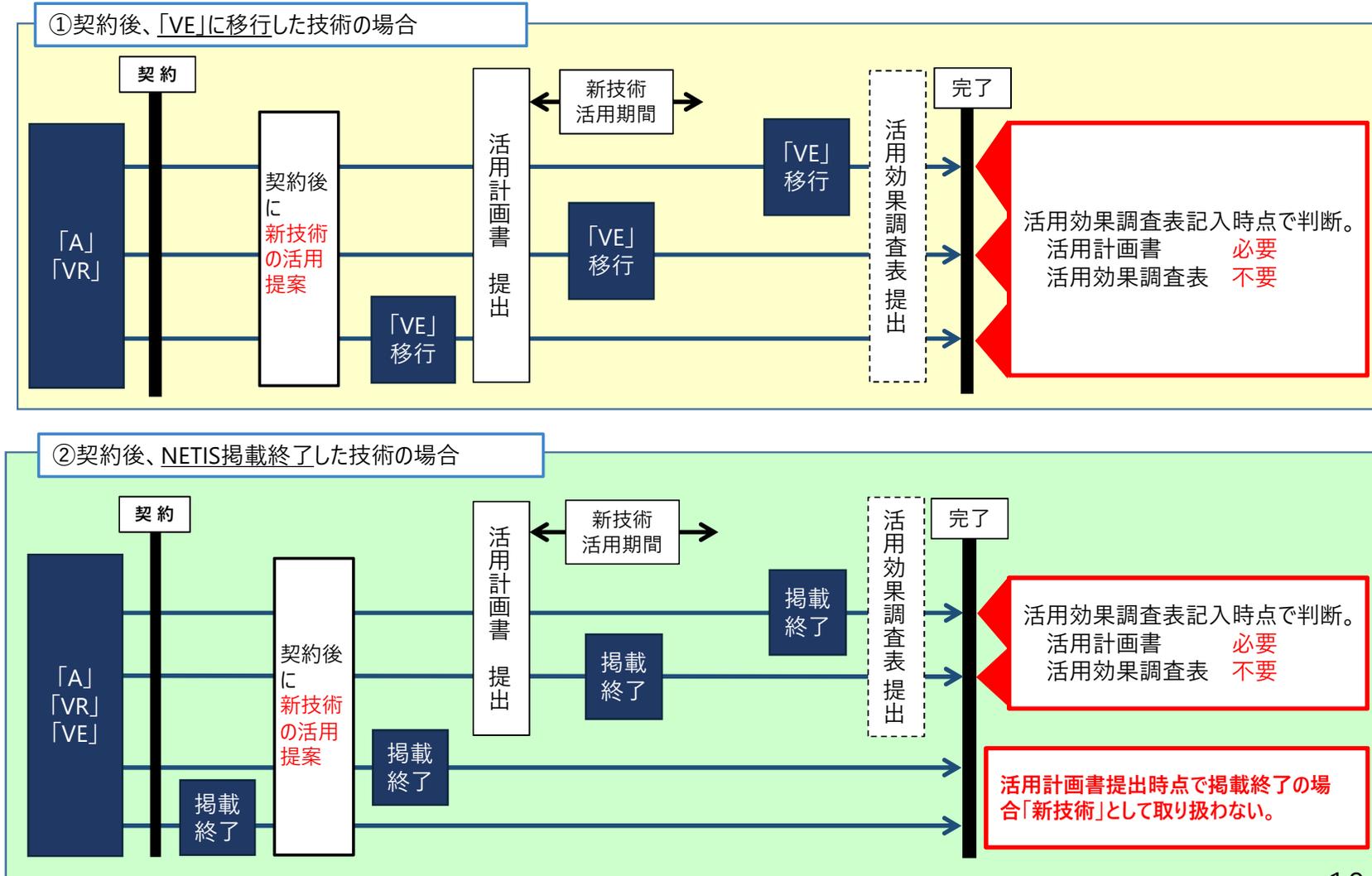
■発注者指定型及び発注者指定型（選択肢提示型）の場合



■施工者選定型（総合評価落札方式における技術提案）の場合

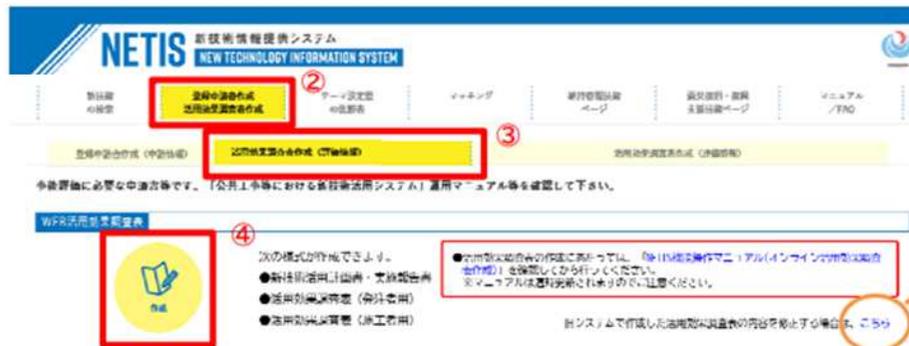


■施工者選定型（契約後提案）の場合



活用効果調査表の作成手順

- ①NETISへログイン <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>
- ②登録申請書作成/活用効果調査表作成タブを選択
- ③活用効果調査表作成（評価情報）を選択
- ④WEB活用効果調査表の作成を選択



旧システム(R4年3月以前)で作成した活用効果調査表の内容を確認・修正する場合は「こちら」をクリック

(操作が解らない場合下記に問合せを)

技術開発相談室 壹岐 (M755-385) 田和(487)
 技術開発対策官 濱本 (M755-302)
 指導官 蚊口 (M755-405)

- ⑤「ログインIDパスワードを新規登録」を選択



新規登録(対象技術を初めて活用する際は赤枠から。
 ログインID/パスワードを申請済みの場合は青枠部分に入力してログイン。)

別工事のログインID/パスワードを**使い回し**しない事

こちらは「ログインIDパスワードを新規登録」を押下した場合の表示です。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

ログインID/PW新規登録フォーム
活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。
以下の内容を入力の上送信してください。

■工事/業務情報

受注者名
組織機関名
部署・事務所名
工事名/業務名
コリンズ/テクリス番号
調査者（施工者）氏名
調査者（施工者）メールアドレス
監督者氏名
監督者メールアドレス

■調査票を作成する新技術のNETIS番号

活用技術の追加ボタン
活用取り止めの場合は削除すること

技術を追加する

新技術のNETIS番号（1技術目）
技術活用提案日

申請 キャンセル

監督職員へ確認メールを送付します。
確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。

部署・事務所名を選択時に「管理支所」のついていない「事務所」を選択してください

コリンズ番号は10桁の数字です。設計書番号ではありません。

担当職員と事前に打ち合わせの上で担当職員の氏名とメールアドレスを入力してください。

技術提案日は記入必須です。1技術毎に必要なになります。（技術提案日は工事開始日でも可）

-A,-VR,-VEは記入不要（KK-240000等と入力する）
※アルファベットは半角大文字のみ

2023年度より活用効果調査表は一工事につき一つのID/PWとなりました。

※ID/PWの使い回しは止めてください！必ず工事が竣工したら新しくID/PWを申請してください。

事前に活用技術が複数ある場合は「技術を追加する」ボタンで追加することができます。

新技術活用計画書
(活用する新技術がA,VRの場合)

提出時に記入されているか確認

クリックでタブ切替え

提出時に✓されているか確認

The screenshot shows a web form for 'New Technology Utilization Plan'. At the top right, there is a link for 'ログイン/パスワード番号・連絡先等の変更'. Below it are icons for '履歴を戻す', '一時保存', '印刷/プレビュー', and '印刷'. A red box highlights the '技術活用提案日' field. Below this are fields for '登録番号(技術活用提案日時点)', '新技術名称', '比較する従来技術', '組織機関名', '部署・事務所名', '工事名', and '活用等の型'. A red box highlights a tab bar with '新技術活用計画書', '実施報告書', and '活用効果調査表(施工者用)'. Below the tabs, there is a '登録番号(機密)' field. A red box highlights a checkbox labeled '記入完了' with a note '※下回の手続きが完了したら、チェックを入れて下さい'. Below this are fields for '作成日', '受注者名', '契約額(円)', '工事期間', '新技術施工期間', '施工場所', and '活用理由'. A list of checkboxes includes '経済性', '工程', '品質・出来形', '安全性', '施工性', '環境', and 'その他'. A red box highlights a 'コメント欄' section with the text 'コメント欄は監督職員とテキストでやり取りする場合に使用'. Below the comment box is a 'コメントを入力してください' field and a 'ファイルを選択' button with the note '選択されていません'.

拡大図

コメント欄は
監督職員と
テキストで
やり取りする
場合に使用

新技術活用計画書
(活用する新技術がVEの場合)

VEの新技術は
「新技術活用計画書」
のみ表示

※施工中にVEに変わった場合も
「新技術活用計画書」のみ提出

VEなのに「実施報告書」
「活用効果調査表（施工者用）」
が表示されている場合は
近畿技術事務所 技術開発相談室まで
連絡してください

技術活用提案日 **提出時に記入されているか確認**

記入完了 **提出時に✓されているか確認**

コメント欄は監督職員とテキストでやり取りする場合に使用

コメント欄 (初期コメント) (注) (内容をコメントしてください)

コメントを入力してください

ファイルを選択 | 選択されていません

新技術活用計画書 工事等情報の記入

計画書作成段階では工事等情報、活用理由を記入して下さい。

①作成日

「ボタン」より、計画書を作成した日を選択。

②受注者名

工事(業務)の受注者名を記入。
ID等を登録した際に入力した情報が反映されます。

③契約額(円)

工事(業務)の当初契約額(税込)を記入。(ex:12,800,000)

④工事期間

工事(業務)の全体工期を「ボタン」より選択。

⑤新技術施工期間

全体工期のうち新技術を活用する期間を「ボタン」より選択

⑥施工場所

施工場所の所在地を記入



※「工事期間」「新技術施工期間」は、当初予定から変更があった際は、施工完了後に正確な日付に修正してください。

工事等情報

新技術活用計画書・実施報告書 活用状況調査書(施工期間)

計画書記入完了 ※「新技術活用計画書」部分の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。
※新技術活用計画書部分：  で選択した項目(「作成日」～「施工場所」、活用理由)

実施報告書記入完了 ※「実施報告書」部分の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。
※実施報告書：  で選択した項目(「施工期間」～「作業環境」)

作成日  ①

受注者名 株式会社●● ②

契約額(円) ③

工事期間  ~  ④

新技術施工期間  ~  ⑤

施工場所 ⑥

活用理由 ※次ページ参照

活用理由 「新技術活用計画書」部分の記入が完了したら、活用理由を「新技術活用計画書」部分の「活用理由」欄に記入してください。

- 経済性
- 工期
- 品質・生産性
- 安全性
- 施工性
- 環境
- その他
- その他

新技術活用計画書 活用理由の記入

- ◎従来技術と比較して、優れると思われる効果についてチェック(☑)を入れてください。
- ◎チェックした項目は、コメント欄を必ず記入してください。
- ◎6項目中、必ず1項目以上の記入が必須となっています。
- ◎6項目以外で活用理由がある場合は、「その他」に記入してください。

活用理由 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

- 経済性
- 工程
- 品質・出来形
- 安全性
- 施工性
- 環境
- その他 ()
- その他 ()

コメント欄

〇〇作業がないため、作業日数の短縮が図れる

軽量であるため、安全に施工することができる。

CO2を増やさな

チェックを忘れない!!

チェック項目は、コメント欄を記入

項目	活用の特徴	比較の優越
経済性	材料は安価だが、鋼筋コンクリート量が増え、経済性は低下する。	
工程	ブロックを大型化したことにより、工期が短縮となる。	
品質	プレキャストコンクリート二次製品であり同等。	
安全性	参考重量60kg(A形)、径半数(3本)と配置により安定するための同等。	
施工性	ブロックの形状調整の改良により施工性が向上する。	
周辺環境への影響	ブロックの製造量は大きき異なるランダムな模様、平均強度計測結果は6.0、ナスタチャー(1)計測値は11で、総合的に同等。	
その他、技術のアピールポイント等	従来の、ブロックの位がブロック真面中心にあり、クレーンを用いなければ高さ調整が行いにくいという課題があったが、新技術では窓の枠を埋めて外装仕上げに配慮したことで、従来よりも、効果的に高さ調整することが可能となり、工期の短縮と省力化が図れる。	
ユースタイプ	有軌型(C1-)型	

申請者(新技術の開発者)による、従来技術と比較した新技術活用の効果がNETISに掲載されています。あくまで参考として確認していただき、『現場の意見として活用する理由』を記入してください。

実施報告書 施工概要の記入

実施報告書(施工概要等)は新技術活用後に記入して下さい。

- ① **内容**
新技術を活用した工事の概要を記入。
- ② **対象数量**
新技術の工種の数量を記入。
(単位は、NETIS掲載情報に合わせる)
- ③ **新技術使用箇所**
対象数量のうち、新技術を使用した箇所を記入。
- ④ **現場施工条件**
新技術を活用した現場条件を記入。
(騒音有無や夜間施工等)
- ⑤ **障害**
施工上での重大な障害・問題の有無を選択。「有」の場合は、
障害の内容を記入。
- ⑥ **作業環境**
新技術を活用した作業環境を選択。

使用数量、使用箇所は
スケールメリットによる
新技術の効果を確認
することから、詳細に
記載してください。

現場条件の差異による
新技術の効果を確認す
ることから、詳細に記
載してください。

The screenshot shows a web-based form for reporting on new technology implementation. It includes several sections with numbered callouts:

- 1** Example: 舗装工7,000m²、道路改良L=1,000m
工種(業務)全体の内容が分かるよう、主要工種のみ記入
- 2** Example: △△橋 橋梁塗装工3,000m²、足場工1,500m²
- 3** Example: △△橋 P3橋脚 足場工1,000m²
- 4** Section for site conditions with examples: 山間部, 半径50m以内に学校あり, 特になし
- 5** Section for obstacles with a dropdown menu for selection.
- 6** Section for working environment with radio button options.

活用効果調査表

活用効果調査表(施工者用)(発注者用)は新技術活用後に記入して下さい。

①評価者

記入者(発注者・施工者)によって、画面表示タブが異なります。

②連絡先等

評価者に関する情報を記入。

【施工者用】

※ 連絡先(TEL): 工事完了後も連絡できる固定電話番号を記入。

【発注者用】

※ 発注課: 発注担当課名を記入。

※ 記入者氏名: 主任監督員、主任調査員等の役職と氏名を記入。

※ 連絡先(TEL): 固定電話番号を記入。

③効果調査

従来技術と比較し、新技術を活用した際の6項目(経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境)について効果の内容を記入。

※ 効果調査: 従来技術と比較しての優劣等評価点をチェック。

※ 優れていた点、劣っていた点: 該当する項目をチェック。

該当する項目がない場合はコメント欄に優れている点、あるいは劣っていた点を必ず記入。

※ コメント: 所見として「効果調査」「優れていた点」あるいは「劣っていた点」の理由を記入。また、「当該技術に関連しない項目」とした場合、その理由を必ず記入。

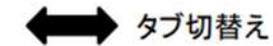


記入漏れや評価に矛盾がないよう発注者は必ずチェックしてください。また、施工者の評価と発注者の評価が大きく異なることがないように、評価に当たっては施工者と発注者の間で十分調整を図ってください。

① 施工者用

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(発注者用) 活用効果調査表(施工者用)

発注者用



新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(発注者用) 活用効果調査表(施工者用)

② 施工者用

会社名(所属) 株式会社 ○○建設
記入者氏名 近藤 次郎
連絡先(TEL) 1234-56-7890

発注者用

発注課 ●●●●課
記入者氏名 主任監督員 建設太郎
連絡先(TEL) 098-7654-3210

③

経済性	効果調査	優れていた点
従来技術より劣る	従来技術より優れる	
○1	○2 ○3 *4 ○5	<input type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 作業人員が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設費が減少したため <input type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input type="checkbox"/> 施工量が想定数量より多くなったため <input type="checkbox"/> 維持管理費の減少が見込まれるため
<input type="checkbox"/> 当該技術に関連しない項目である コメント 全角1000文字以内 自動で音声読み上げされるため、歩行者等が比較的少ないなど交通誘導員を配置するまでもない場所で有効に活用できた。		劣っていた点 <input type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため <input type="checkbox"/> 作業人員が増加したため <input type="checkbox"/> 仮設費が増加したため <input type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input type="checkbox"/> 施工量が想定数量より少なかったため <input type="checkbox"/> 維持管理費の増加が見込まれるため

評価内容に矛盾がないように整合を図ってください

例えば、効果調査は「4」(従来技術より優れる)をチェックしているのに「劣っていた点」をチェックしている等

活用効果調査表 総合的所見

①優れていた所

従来技術と比較して、優れていた点を記入。

②劣っていた所

従来技術と比較して、劣っていた点を記入。

③留意する所

新技術を活用する際に、特に留意すべき点を記入。

気がついた点など、
留意点を詳細に記載
願います。

④アンケート項目

該当する項目を選択し、回答。

⑤従来技術名

比較する従来技術が適切でなかった場合、比較すべき従来技術を記入。

⑥今後の当該技術活用の理由

アンケートにて項目を選択した理由を記入。

⑦改善点・要望・その他

改善点等がある場合は、自由に記入。

総合的所見

NETIS掲載情報の「期待される効果」に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内

①

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表します

劣っていた所 全角1000文字以内

②

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表します

留意する所 全角1000文字以内

③

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

④ 適切であった 適切でなかった
適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい。 全角1000文字以内

⑤

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由 全角1000文字以内

⑥

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい。 全角1000文字以内

⑦

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#) [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表します

活用効果調査表 施工状況等の写真

- ◎ **施工者のみが作成**します。発注者による作成は不要です。
- ◎ 当該技術に関連した写真を、「**施工前**」「**施工中**」「**施工後**」など各段階において添付してください。
- ◎ 写真ファイルは、2MB(300×200pixel)程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。
- ◎ **写真タイトルの記入漏れ**が多くみられます。**必ず記入**してください。

写真添付必須

※新技術を活用している状況が分かる写真を添付
(全景・近景・施工前・施工中・施工後等)

※ソフトウェアなど施工写真がない場合は、利用状況やモニタ画面などの写真を添付

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。

写真1	写真2	写真3
<p>ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または</p> <p>ファイルの選択 RIMG0001.jpg</p> <p>削除</p> 	<p>ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または</p> <p>ファイルの選択 RIMG0002.jpg</p> <p>削除</p> 	<p>ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または</p> <p>ファイルの選択 RIMG0003.jpg</p> <p>削除</p> 
登録済み写真名: トレスロック	登録済み写真名: 掘付中	登録済み写真名: 施工完了

注意事項(活用効果調査表にエラーがあるときの画面と対応)

閉じる
戻る
印刷
確認

ログイン/テクリス番号・連絡先等の変更

※20分間でタイムアウトします。作業の進捗、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。

技術活用調査日: 2023/02/17

登録番号(技術活用調査日時点): CG-220009

新技術名称: コンクリートキャンバス工法

比較する従来技術: モルタル吹付け工(t=5cm)

組織機関名: 近畿地方整備局

部署・事業所名: 福井河川国道事務所

工事名: 供集地区橋梁補修工事業

活用等の型: 施工者指定型(契約後投票)

登録番号(最新): CG-220009

①記入完了にチェックし②登録ボタンをクリック時にエラーがある場合③メッセージが表示され、エラー箇所が赤色に反転(次ページ参照)しますので入力して再度②登録ボタンをクリックして下さい。

【注意】
複数箇所が赤色に反転しているケースもありますので最後までスクロールして確認をして下さい。

※ 新しく入力されていない内容があります。メッセージをご確認のうえ、再度ご入力ください。

記入要領

- 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者が評価に関係ないと判断した調査項目があれば「当該技術に関係しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい(チェックの目安は下表の通り)。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

【ポイント】
活用した新技術が、従来技術に対して「優れる」か「同等」か「劣る」かを判断してやる、この判定が誤っているか、どの判定を行っているかを上表を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。

- 調査項目の追加が必要な場合はその他(自由設定)欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優っていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい(複数チェックすることも可能です)。
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入らなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、効果調査の理由を必ず記入して下さい。
また、当該技術の活用及び活用検討する上での留意事項等を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の観点でチェックした内容と必ず照合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

■ 記入完了 ※「次回効果調査(先月号用)」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

21

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	

※当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

【エラー】安全性のコメントを入力してください。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

- 災害・転落事故の危険性が減少したため
- 豪雨災害の危険性が減少したため
- 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(騒がり・騒音・振動作業等)が向上したため
- 危険物の取扱いが減少したため

劣っていた点

- 災害・転落事故の危険性が増加したため
- 豪雨災害の危険性が増加したため
- 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(騒がり・騒音・振動作業等)が悪化したため
- 危険物の取扱いが増加したため

エラー箇所が赤色に反転された例です

留意する所 全角1000文字以内

特になし。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった 適切でなかった

【エラー】総合的所見の当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたかを入力してください。

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内

【エラー】総合的所見の今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますかの理由を入力してください。

活用効果調査表のよくある修正事例

活用効果調査票は評価会議の資料になりますので評価をお願い致します。

(識別記号：-A、-VR)

－評価における基本事項－

基本1) 施工者と発注者が同じ効果調査の項目 (経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境)

を評価しますが、食い違う場合は両者で協議することになります。

基本2) 効果調査を評価するのはNETISに記載の従来技術との比較になります。

基本3) 効果調査を評価する項目の評価点は施工者と発注者で2点以上の差は付けないことが望ましいですが、どうしても2点以上の差がでる場合は両者で協議することになります。

理由：評価会議において、有識者からの指摘がありますので注意が必要。

基本4) 効果調査のコメント欄は評価会議で重要視されるので、必ず評価した理由を記入する。
(【当該技術に関連しない項目である】の場合は『当該技術に関連しない』と記入。)

【備考】

・評価にあたり、NETIS新技術情報提供システムで技術検索し『従来技術との比較』に『活用の効果』が掲載されているので参考にしてください。

項目	従来技術	新技術	評価
経済性			
工程			
品質			
安全性			
施工性			
品質向上への効果			

注意) 『活用の効果』の各項目で『向上』『同程度』『低下』のいずれかで評価されているため、『向上』→『低下』『低下』→『向上』とする場合、注意が必要。

－事例 1－

施工者と発注者で効果調査を評価されている項目（経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境）が違っている。

活用効果調査表（発注者用）

発注課								
記入者氏名								
連絡先 (TEL)								
経済性	効果調査	優れていた点						
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 電池交換不要のため経費減少した。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<ul style="list-style-type: none"> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
		4						
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし							
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし							
安全性	効果調査	優れていた点						
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 従来技術と同程度</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3		<ul style="list-style-type: none"> 作業環境(音がり・騒音・狭所作業等)が向上したため <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
	3							
施工性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし							
環境	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし							

活用効果調査表（施工者用）

会社名									
記入者氏名									
連絡先 (TEL)									
経済性	効果調査	優れていた点							
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【コメント】 太陽光発電のため電池交換がないので電池の購入費用が不要になった。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			5	<ul style="list-style-type: none"> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <p>劣っていた点</p>	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる							
		5							
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし								
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし								
安全性	効果調査	優れていた点							
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 周囲が暗くなったら自動露光されるので、第三者への視認性が向上した。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		4		<ul style="list-style-type: none"> 作業環境(音がり・騒音・狭所作業等)が向上したため <p>劣っていた点</p>	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる							
	4								
施工性	効果調査	優れていた点							
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 電池交換の手間がないので施工性が向上した。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<ul style="list-style-type: none"> 現場での施工が減少したため <p>劣っていた点</p>	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる							
		4							
環境	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし								

施工者は『施工性』を評価しているが発注者は評価していない。

発注者と施工者で効果調査を評価されている項目（経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境）の評価点が大きく違っている。

※発注者と施工者で評価点が大きく異なる場合は、後日事務局から評価内容について再確認をする場合があります。

活用効果調査表（発注者用）

活用効果調査表（施工者用）

発注課							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 飛散防止につながり、現場確認等の人件費削減につながった。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし						
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし						
安全性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【コメント】 火災防止につながった。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		5					
施工性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし						
環境	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 なし						

施工者が【経済性】を【2】に対して発注者は【4】と評価している。

会社名							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> </table> <p>【コメント】 飛散、飛翔防止剤なので余分なコストが掛かる。しかし、火災防止のため使用している。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			2
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		2					
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特にありません。						
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特にありません。						
安全性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 発煙筒の飛散、飛翔防止剤なので火災防止につながります。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
施工性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特にありません。						
環境	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特にありません。						

— 事例 2 —

項目において効果調査の評価点（経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境）が全て【当該技術に関連しない項目である】と評価されている。

活用効果調査表（発注者用）

発注課	
記入者氏名	
連絡先 (TEL)	
経済性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし
安全性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし
施工性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし
環境	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし

※完全に関連しない項目のみに「関連しない項目」としてしてください。また関連しない項目を選択した場合はその理由を必ず記載してください
 (例：積算では共通仮設費率計上のため関連しない項目である。は理由となりません。比較する従来技術と比べてどうかを入してください。)

評価する時の参考資料
 経済性と品質は評価対象で他は同程度

項目	比較する従来技術	実用
経済性	向上	同程度 低下 (-22.42%)
工程	同程度	同程度 (0%) 増加
品質	向上	同程度 低下
安全性	向上	同程度 低下
施工性	向上	同程度 低下
周辺環境への影響	向上	同程度 低下

－ 事例 3 －

NETISに登録されている情報では『経済性』が低下してるが、評価では『従来技術より優れている』に評価されている。

活用効果調査表（発注者用）

発注課									
記入者氏名									
連絡先 (TEL)									
経済性	効果調査	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理 <p>劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械器具 <p>ため</p>
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
		4							
【コメント】	初期費用は従来技術と比較すると劣るが、維持管理費を含めると安価になると想定される。								
工程	効果調査	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3		<p>優れていた点</p> <p>劣っていた点</p>
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
	3								
【コメント】	従来技術と同等。								

※評価に当たってはNETIS申請情報の「活用の効果」を参考して評価してください。「活用の効果」と異なる評価の場合はその理由を記載してください。
 (必ずイニシャルコストで評価します。
 ※よくない例：〇〇は初期投資は高いが、長期で見ると維持管理費が安くなるので経済性向上。)

The screenshot shows the NETIS 'NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM' interface. It features a navigation menu with options like '従来技術との比較', '特許・実用新案', '標準・施工方法', '施工実績', '問合せ先・その他', '技術説明資料', and '職員専用'. The main content area displays a comparison table for '活用の効果' (Application Effect) comparing '比較する従来技術' (Comparison Conventional Technology) and '適用の効果' (Application Effect). The table lists various categories: '経済性' (Economicity), '工期' (Lead Time), '品質' (Quality), '安全性' (Safety), '施工性' (Constructability), and '周辺環境への影響' (Impact on Surrounding Environment). For '経済性', the dropdown menu is set to '低下 (-8.9%)'. A red arrow points from the '4' in the '経済性' survey table to the '低下 (-8.9%)' dropdown in the screenshot.

－事例4－

施工者と発注者で効果調査を評価されている項目（経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境）が違っている。

活用効果調査表（発注者用）

発注課							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 電池交換不要のため経費減少した。</p> <p>優れていた点 ▪ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため</p> <p>劣っていた点</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
工程	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						
品質・出来形	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						
安全性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 従来技術と同程度</p> <p>優れていた点</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
	3						
施工性	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						
環境	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						

活用効果調査表（施工者用）

会社名							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【コメント】 太陽光発電のため電池交換がないので電池の購入費用が不要になった。</p> <p>優れていた点 ▪ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため</p> <p>劣っていた点</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		5					
工程	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						
安全性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 周囲が暗くなったら自動発光されるので、第三者への視認性が向上した。</p> <p>優れていた点 ▪ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため</p> <p>劣っていた点</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		4	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
	4						
施工性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 電池交換の手間がないので施工性が向上した。</p> <p>優れていた点 ▪ 現場での施工が減少したため</p> <p>劣っていた点</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		4	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
	4						
環境	<p>当該技術に関連しない項目である</p> <p>【コメント】 なし</p>						

※施工者と発注者で評価する項目を合わせてください。また、新技術の効果を違う評価項目で評価しない。
(例：○○技術の耐久性を施工者は安全性、発注者は品質・出来形で評価など)

施工者は『施工性』を評価しているが発注者は評価していない。

— 事例 5 —

効果調査の評価項目においてコメント欄に評価した理由が書かれていない。

※評価が従来より優れる又は劣る場合は、必ずコメント欄に評価理由を記入してください。

活用効果調査表（発注者用）

発注課							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	効果調査		優れていた点				
	<table border="1"> <tr> <th>従来技術より劣る</th> <th>同等</th> <th>従来技術より優れる</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
	【コメント】 特になし		劣っていた点				
工程	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし						
品質・出来形	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし						
安全性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし						
施工性	当該技術に関連しない項目である 【コメント】 特になし						
環境	効果調査		優れていた点				
	<table border="1"> <tr> <th>従来技術より劣る</th> <th>同等</th> <th>従来技術より優れる</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
	【コメント】 特になし		劣っていた点				

活用効果調査表（施工者用）

会社名							
記入者氏名							
連絡先 (TEL)							
経済性	効果調査		優れていた点				
	<table border="1"> <tr> <th>従来技術より劣る</th> <th>同等</th> <th>従来技術より優れる</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
	【コメント】 運用するコストだけを見れば、アプリであり高価なものではないとはいえ、従来技術ではコストが発生しないため比較すれば少し劣ってしまう。しかし、クレーン作業等で事前に中止が判断できたため余計なコストが発生しなかった。		劣っていた点				
			<ul style="list-style-type: none"> 機械経費・製品単価・補助材料費増加したため 				

－事例6－

総合的所見の【今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか】の理由欄に選択した理由が書かれていない。

※理由がない場合は確認することになるので、必ず記入してください。

総合的所見	<p>【NETIS掲載情報の「期待される効果」に対して、活用した結果はどうでしたか】</p> <p>●優れていた所 特になし</p> <p>●劣っていた所 特になし</p> <p>●留意する所 特になし</p> <p>【当該現場ではNETIS掲載情報の「比較対象」は適切でしたか】 適切であった</p> <p>【今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか】 今後も是非活用したい 特になし</p> <p>【当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい】</p>
-------	---

【記入例】

- ・【今後も是非活用したい】【活用を検討したい】を選択するときは、理由欄に『優れていた所』を参考に記入する。
- ・【場合によっては活用することもある】を選択するときは、理由欄に『優れていた所』『劣っていた所』を参考に記入する。

活用効果調査表の模範例

該当項目（経済性、工程・品質出来形、安全性、施工性、環境）が評価されコメントも記入されている。

活用効果調査表（発注者用）

発注課		その他 0	当該技術に関連しない項目である 【コメント】					
記入者氏名		その他 0	当該技術に関連しない項目である 【コメント】					
連絡先 (TEL)		総合的所見	【NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか】 ●優れていた所 安全にかつ容易に施工が出来る ●劣っていた所 特に無し ●留意する所 特に無し 【当該現場ではNETIS掲載情報の『比較する従来技術』は適切でしたか】 適切であった 【今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか】 今後も是非活用したい 安全にかつ容易に施工が出来るため 【当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい】 特に無し					
経済性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 作業人員は減少したが、機械経費は増加したため同等と評価する。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3		<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業人員が減少したため 施工日数が短縮したため 施工量が想定数量より多かったため <p>劣っていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械経費・製品単価・補助材料費増加したため
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
	3							
工程	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 単管による仮組を必要とせず施工性が向上した。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工日数が短縮したため 施工性が向上したため 仮設が減少したため <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
		4						
品質・出来形	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 品質としては同等</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3		<p>優れていた点</p> <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
	3							
安全性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 作業員が近づくこと無く作業が出来る</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 重機災害の危険性が減少したため <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
		4						
施工性	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 作業員の作業が容易となった。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4	<p>優れていた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業員の作業が容易になったため 熟練度に依存した作業が減少したため <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
		4						
環境	<p>効果調査</p> <table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 環境は同等</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3		<p>優れていた点</p> <p>劣っていた点</p>
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
	3							

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

評価する時の参考資料

活用効果	比較する従来技術	単管パイプを組み立てた製作時
項目		活用の効果
経済性	向上 (13.84%)	同程度 低下
工程	短縮 (58.33%)	同程度 増加
品質	向上	同程度 低下
安全性	向上	同程度 低下
施工性	向上	同程度 低下
周辺環境への影響	向上	同程度 低下

活用効果調査表（施工者用）

会社名							
記入者氏名							
連絡先（TEL）							
経済性	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 製品費用は増加するが、1袋当たりの作製時間が大幅に短縮できたため、全体的に経済的となった。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
工程	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【コメント】 日当たり施工量が従来より増加したため、工程短縮できた。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		5					
品質・出来形	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 活用後、特に変化なし。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
	3						
安全性	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </table> <p>【コメント】 重量による土砂投入時に作業員が近づくことなく施工可能なため、安全に施工を行うことができた。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			4
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		4					
施工性	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【コメント】 手元作業員の作業が容易となり、施工性が向上した。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる			5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
		5					

環境	効果調査	優れていた点					
	<table border="1"> <tr> <td>従来技術より劣る</td> <td>同等</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【コメント】 活用後、特に変化なし。</p>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		3	
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
	3						
その他 0	当該技術に関連しない項目である	【コメント】					
その他 0	当該技術に関連しない項目である	【コメント】					
総合的所見	【NETIS掲載情報の「期待される効果」に対して、活用した結果はどうでしたか】						
	<p>●優れていた所 従来方法よりも施工性、施工量が格段に向上したため非常に良かった。土砂投入時も作業員が重機に接近することなく作業ができるため、安全性についても効果があった。</p> <p>●劣っていた所 特になし</p> <p>●留意する所 特なし</p> <p>【当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか】 適切であった</p> <p>【今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか】 活用を検討したい 日当たり施工量の増加を見込めるため。</p> <p>【当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい】 特になし</p>						

コメント記入例

- ・同等【3】のときのコメント例：**従来技術と同等。**
- ・『当該技術に関連しない項目である』のコメント例：**当該技術に関連しない。**